保護者の皆さまへ

予防接種を受けましょう！

中 央 区 保 健 所 長

予防接種は、免疫をつくって感染症を予防するのに役立ちます。以下のお知らせをご覧いただき、理解した上で予防接種を受けましょう。

５種混合：[ジフテリア･百日せき･破傷風･ポリオ･インフルエンザ菌ｂ型]
定期予防接種のお知らせ

病気の説明

ジフテリアは、ジフテリア菌の飛沫感染（ウイルスや細菌が咳やくしゃみなどで空気中へ飛びだし約１ｍの範囲で人に感染）が起こります。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様の咳、嘔吐などで、のどに偽膜をつくり呼吸困難や窒息を起こすことがあります。また、菌の出す毒素により心筋障害や神経マヒを起こしたり、死亡することもあります。

百日せきは、百日せき菌の飛沫感染で起こります。普通の風邪のような症状で始まり、咳がひどくなり、顔を真っ赤にして咳きこむようになります。乳児でも罹り、咳で呼吸ができずチアノーゼやけいれんを起こしたり、肺炎や脳症などの重い合併症を起こし、死亡することもあります。

破傷風は、土の中に潜んでいる破傷風菌により傷口から感染します。菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は自分でも気づかない程度の軽い傷が原因です。日本中どこでも菌がいるので感染する機会があります。

急性灰白髄炎（ポリオ）は、ポリオウイルスに感染したヒトの便中に排泄されたウイルスが口から入り、咽頭または腸で増殖します。ほとんどが不顕性感染（感染しても病気としての症状が出ず知らないうちに免疫だけができるような感染）で終生免疫を獲得しますが、100人中５～１０人は、風邪様の症状で発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれ、まれに麻痺が出現します。一部の人にはマヒが残ることや、呼吸困難で死亡することもあります。

インフルエンザ菌ｂ型（Ｈｉｂ）は、乳幼児の細菌性髄膜炎の原因の半分以上を占めています。細菌性髄膜炎（Ｈｉｂ髄膜炎）にかかると約５％の乳幼児が死亡し、約２５％に発育障害（知能障害など）や聴力障害、てんかんなどの後遺症が残ると考えられています。

５種混合ワクチン

令和６年４月から５種混合ワクチンが定期接種に位置付けられました。５種混合ワクチンは、４種混合ワクチンにＨｉｂワクチンを加えたもので、現行の４種混合ワクチン及びＨｉｂワクチンと同等の有効性・安全性を有すると考えられています。

◇　対象年齢

生後２カ月から９０カ月（７歳６カ月）の前日まで

◇　接種回数及び接種間隔

＜接種回数＞　初回：３回　　追加：１回　　計４回

＜接種間隔＞

初回１回目 →２０～５６日間隔→ 初回２回目 →２０～５６日間隔→ 初回３回目 →6～１８カ月 → 追加接種

◇　副反応

接種部位の紅斑・硬結・腫脹、気分変化、下痢、発熱（37.5℃以上）等がありました。

また、稀ではありますが、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれん（熱性けいれんを含む）に関する注意が記載されています。

◇　接種場所

区ホームページに掲載している医療機関名簿をご確認のうえ、実施医療機関で接種を受けてください。

※予防接種が受けられる日時は医療機関によって異なりますので、事前に医療機関へご確認ください。

※他区の医療機関でも受けられる場合がありますので、希望区の保健所にお問い合わせください。

◇　料　金

無料（国内承認ワクチンのみ）　※無料(公費)で接種できる期限は予診票に記載

◎　中央区から転出した場合や医療機関名簿に記載されていない医療機関、接種の有効期限を過ぎた場合は、今回送付している予診票は使用できません。

区ホームページ

◆予防接種を受ける前に◆

（１）一般的な注意事項

予防接種は、健康な人が元気なときに接種を受け、その病原体の感染を予防するものですから、体調の良いときに受けるのが原則です。体調の悪いときには無理をせず、次の機会を待ちましょう。お子さんの日ごろの体質や健康状態で何か気にかかることがあるときは、あらかじめ、かかりつけの医師や保健所にご相談ください。

（２）予防接種を受けることができない人

次の方は、予防接種を受けることができません。

① 明らかに熱のある方（通常は３７．５℃を超える場合）
② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
③ ワクチンに含まれる成分(ゼラチン､抗生物質､卵など)でアナフィラキシーをおこしたことがある方
※アナフィラキシー：接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応。発汗､顔が急に腫れる､全身のじんましん､吐き気･嘔吐､声が出にくい､息苦しいなどの症状に続きショック状態になる激しい全身反応
④ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

（３）予防接種を受ける前に医師とよく相談しなくてはならない人

次の方は、主治医と事前によく相談のうえ、診断書又は意見書をもらってから接種に行きましょう。

① 心臓病、肝臓病、腎臓病や血液の病気で治療中または発育障害などの基礎疾患のある方
② 発育が悪く医師や保健師の指導を継続して受けている方
③ 未熟児で生まれて発育の悪い方
④ 風邪などのひきはじめと思われる方
⑤ これまでに予防接種を受けて２日以内に発熱、発疹などアレルギーを思わせる異常がみられた方
⑥ 薬を使用して皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある方
⑦ 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
けいれんの起こった年齢、そのときの発熱の有無、その後けいれんが起こっているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。かかりつけの医師と事前によく相談しましょう。原因がはっきりしている場合には、一定期間たてば接種できます。
⑧ 中耳炎や肺炎などにかかりやすく、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
⑨ ワクチンの成分にアレルギーを起こす恐れがある方
⑩ 家族など同居者、または遊び友達、クラスメイトの間に、麻しん(はしか)、風しん、おたふくかぜ、みずぼうそうなどの病気が流行しているときで、その病気にこれまでかかったことのない方

（４）接種にあたってのお願い

① 同封の予診票は、接種に行く前に、必要な全ての項目について保護者が正確に記入してください。
② 接種の際には予診票、母子健康手帳を持参の上、保護者又は保護者から委任を受けた方が必ず同伴してください。その他持ち物等は、医療機関にお問合せ下さい。
③ 必ず母子健康手帳で接種歴を確認し、該当する回数の予診票を使用してください。

◆他のワクチンとの接種間隔◆

他のワクチン接種との接種間隔の規定はありません。

◆予防接種を受けた後に◆

① 予防接種を受ける前後30分間は、飲んだり食べたりしないでください。
② 予防接種を受けた後30分間は、接種場所でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。アナフィラキシーなど急な副反応はこの間に起こることがあります。
不活化ワクチンでは、24時間は副反応の出現に注意しましょう。
③ 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
④ 接種後１週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや期限が悪くなった時などは医師にご相談ください。
⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが接種部位はこすらないでください。

【問合せ先】中央区保健所 健康推進課　　中央区明石町12－１　　ＴＥＬ　３５４１－５９３０